

第3回 初倉地区小中学校再編方針検討委員会 概要

教育総務課

日時：令和3年7月15日午後7時00分～午後8時45分

会場：初倉公民館「くらら」第4・第5集会室

出席：中野委員長（教育部長）、大石副委員長、中山委員、甲賀委員、大塚寛委員、中村委員、萩原委員、天野委員、山内委員、大塚政委員、村田委員
事務局（鈴木教育総務課長、廣田総務係長、鈴木事務員）

オブザーバー：教育長、沖指導主事

1 開会（午後7時～）

2 あいさつ（委員長より）

改めまして、委員の皆様におかれましては、ご出席いただき、ありがとうございます。また、5月には浜松中部学園の視察にご参加いただきありがとうございました。

今回の会議は、視察を踏まえた内容となっておりまして、視察の感想やPTA本部会議などで聞き取りを行っていただいた状況を伺う場面もありますので、よろしく願います。

3 協議事項

（1）今後のスケジュールについて（事務局より）

事務局：まず令和3年7月に、ただ今開催中の検討委員会を載せてあります。本日は、視察に基づく委員の皆様のご感想やPTA本部役員の方々の会合などで聞き取っていただいた御意見のとりまとめ、さらに来月予定しているアンケートの内容について確認をしていただきたいと思います。

委員会が終了しましたら、今月中に視察を終えての委員の皆様のご感想等を含めて視察報告の周知を行います。

8月2日には、島田第四小学校の新校舎見学会を予定しています。これは、委員の皆様にご教室の配置やICT環境などを見ていただくことを目的としています。要望があれば、委員の皆様だけでなく初倉地区の小中学校のPTA役員の方々にも参加いただけます。

また、8月の下旬にはアンケートを実施して、9月中旬の回収を予定しています。

10月になりましたら、4回目の検討委員会を開催し、アンケート結果の報告とともに、方針案となる提言書の内容についての協議をお願いしたいと思います。

委員の皆様にはアンケート結果と方針案を持ち帰っていただき、PTAや地域の役員等の御意見を再度聞き取っていただくことをお願いしたいと思います。

12月に5回目の検討委員会を計画しています。ここでは、提言書の最終的な調整を行い、固めていただきます。

年明け1月には再編方針の検討結果となる提言書を教育委員会に提出していた

できます。ここまでが委員の皆様にお願ひしました業務となります。

その後、教育委員会では、1月下旬の教育委員会定例会で、いただいた提言書をもとに協議し、さらに2月には総合教育会議の場で教育委員と市長が協議します。

これら結果を踏まえまして、2月下旬の教育委員会定例会において、正式に教育委員会としての方針を決定する予定です。

(2) 施設一体型小中一貫校の事例視察報告について（事務局より）

事務局：今回の視察は、県内にある施設一体型小中一貫校、すなわち小中一体校の事例として浜松中部学園を選定し、令和3年5月17日に同校を訪問してきました。当検討委員会からは、8名の委員に御参加いただきました。

浜松中部学園は、浜松市中心部にあった旧元城小学校と旧北小学校の小学校2校と、中部中学校の計3校を再編し、平成29年4月に開校した小中一体校です。学園の構成としては、浜松市立中部小学校と浜松市立中部中学校が同一敷地・施設内にあり、それぞれ初等部、中等部という位置づけとなっています。

視察では、はじめに学園の概要について、校長から説明をいただき、次に授業中の校舎や体育館などを見て回り、最後に初倉地区の皆様からいただいた質問の回答や委員との質疑応答を行いました。

詳細については、別紙1「小中一体校先進事例視察会議録 概要」のとおりです。

帰りの車中などで、委員の皆様から伺った感想からも、小中一貫や小中一体校の理解を深める有意義な視察であったのではないかと感じております。

委員長：「(1) 今後のスケジュールについて」と「(2) 施設一体型小中一貫校の事例視察について」の説明を受けました。事務局からの説明のとおり、小学校2校と中学校1校という形が、初倉地区の現在の状況と同じでしたし、県内ということもあり、今回の視察先は浜松中部学園とさせていただきます。

浜松中部学園は約900人の児童生徒が通い、今の島田市にはない規模の学校でしたので、伺ってみて初めてわかることが多くあったと思います。また、校舎に目を向けてみますと、浜松市中心部の浜松城公園に隣接する特殊な地形に建設されたこともあり、工夫に工夫を重ねて造られた学校施設だな、という印象を受けました。

このほか、市街地の商店と学校とのつながりが強かったり、公共交通機関の利便性が高かったりと、都会らしい特色も目立ちました。

参加した委員の皆様は、あどけない小学1年生と立派な中学3年生が同じ校舎で学習している姿を目にして、どう思われたでしょうか。

ここからは、委員の皆様から、視察の感想やPTA本部会議などで聞き取ったことについて、お聞きしたいと思います。

委員A：小中一体の学校を初めて見て、校舎の設備が整い、きれいな学校でした。一方、放課後に小学生がグラウンドをほとんど使えないなどの制約がある事も分かりました。初倉でも小中一貫校を実現するには、何を課題として、改善し、1つの特色になるようなものを作っていけたら良いと感じました。

初倉南小の本部役員に説明をした際に、多くの質問をいただきました。もともと私を中心に反対していたこともあり、一貫校に前向きな質問というのは無く、不安が大きいといった印象でした。小学校の本部役員の方々と短いスパンで話し合い、保護者の意見をくみ取り、この委員会で展開していけたらよいと思いました。いずれにせよ、上手く周知できていないと感じました。

委員B：校舎が新しく、環境が整っていたので、子供たちが学習するにはとても良い環境だと感じました。視察では小中学生の交流が見られなかったもので、具体的にどういった交流をしているのかPTAの本部役員会で説明できなかつたです。

中学校の本部役員会では、小学生に教員が不足している科目を中学校の先生から専門的に教えてもらえるのは学習面でプラスになるという意見がありました。子供たちにとって何がプラスになるかを考える必要があるという意見が、本部役員の中で一致しました。初倉南小学校と初倉小学校が統合する際のアンケートで、マイナス意見が出てくるのは、現状を知らないからであり、現状とこれからの方針を周知していくことが大事という意見も出ました。

委員C：様々な人が長年かけて意見を出され、それを集約された校舎であると感じました。また、校舎を使っていく中で、課題が見つかっているのではないかと感じました。公民館長として、小中一体校になることにより、どのように地域との交流が変化するかについて質問をさせていただきました。学校と地域をどのように繋げていけるかを考えました。この委員会で、みなさんの意見を聞き考えることによって、より魅力ある学校づくりができると感じています。

委員D：生徒指導上の面で子供たちの様子を見てみると、中1ギャップが解消されており、中学生が小学生に声を掛けたり、小学生は中学生を手本とするといった良い効果が生まれていると感じました。

一方、体育館では2つの学級が体育の授業をするには狭い印象を受けました。先生方に伺うと、交流授業については無理をしない範囲で行うようにしていると聞きました。

委員E：小中学校で教員同士の交流がある事がメリットであると感じました。免許外の授業を無くすだけでなく、小学校教員が中学校3年を知り、卒業時の姿をイメージして指導できる。中学校の教員が小学校の授業に関わり、上がってくる子供たちをこれからどうやって育てていくかをイメージしやすく、互いの良さを感じられるなと思いました。

実際に中学校の教員が初倉小と初倉南小の授業を見学しているが、小中一体校だとやりやすいと感じた。小学校の先生が中学校の部活動の指導に興味があれば、力を発揮する先生がいるのではないかと感じました。また、理科室などの特別教室を小学生がほとんど使えなくなってしまうのではないかと感じました。

小体育館はかなり狭いといった印象を受け、大きい体育館1つでは足りないと思いました。グラウンドも同様です。また、小中学校ではバスケットゴールの高さが異なるといったことも考えなくてはならないと思いながら見学をさせていただきました。

委員F：中1ギャップがないというのが一番の印象に受けたことです。学校の先生に

実際に聞くと、最大のメリットは9年間を見通して教育できることだそうです。私もそこはメリットだと思います。課題としては、グラウンドが狭く、共有することの難しさと、理科室を小学校高学年がほとんど使えていないということです。

本部役員全体では、3つの小学校の統合の視点で話をしていたが、小中学校の統合はあまり話に出てこなかったというのが感想でした。小中の統合になると、メリット、デメリットを話し合わなければいけないという感想でした。

委員G：今の5年生が1年生の時に小中一体校になり、まだ9年間通った学年がないということなので、今の5年生が卒業したら再度お話を聞きたいと思いました。

養護教諭の先生など、基本的に1人しかいない学校が多いですが、2人いるということで、先生にとっても大変心強いなと感じました。

開校までの経緯を聞いたときに、反対意見が出たと言っていたが、どんな反対意見があったのかを聞けばよかったです。東京では生徒が集まりすぎているという話を聞いたが、浜松中部学園は学年100人と人数の調整もできているといった印象でした。

また交通の便が良いなどといった環境の良さも、反対意見があった中で、小中一体校が実現した要因の1つだと感じました。

委員長：ありがとうございます。一通り、皆様から感想などをいただきましたが、参加できなかった委員から聞いておきたいことはありませんか。

委員H：理科室やグラウンドに制約があることから、生徒たちの知的欲求が損なってしまうのではないかと思います。

委員I：中学生になっても小学生の時に世話になった先生がいる安心感がある一方、9年間人間関係をリセットできないという話にもなりました。中学生がいると小学生が委縮してしまうのではないかと心配があったが、中学生が小学生の面倒を見るなどして、小学生が伸び伸び生活しているという話を聞きました。

浜松では交通の便が良く、学区外から通う生徒もいるとのことでしたが、初倉地区では同じことをするのは難しいだろうという話をしました。部活動があると小学生がグラウンドで遊べないというのはかわいそうだと感じました。初倉地区3校とも古いので、建て替えをするのは大変だが、モデル校としての魅力が出てくればもっと話を聞きたいという声がありました。

委員長：いろいろなご意見をいただきありがとうございます。保護者の方々から不安があるというお話があったそうですから、その点は周知等をしていかなければならないと思いました。学校の先生からも学校施設の使い勝手についてお話を伺いました。それらを参考にして次に進めていけたらと思います。

(3) 施設分離型小中一貫校とのリモート会合について

事務局：施設分離型の小中一貫校についても参考になる情報はないかと考え、平成24年度から小中一貫校をスタートさせている茨城県つくば市の学校を調べてみました。

茨城県つくば市内には施設一体型・分離型を合わせて15の小中一貫校があります。学校間の物理的距離や規模として参考になるであろう施設分離型の小中一貫校

である、桜並木学園の並木中学校の校長先生と教諭の先生に、学校の取組や児童生徒の様子を、リモートの会合にて教えていただきました。

桜並木学園は並木中学校、並木小学校、桜南小学校による一貫校です。小学校は1学年2クラス。3校の距離も直線距離で700m程度の範囲に所在する施設分離型小中一貫校です。施設一体型と違い、各校にそれぞれ管理職がいます。小中一貫校として統一した教育目標や目指す児童生徒像等を持ち、教育活動に取り組んでいるとのことです。日課表や週時程表は各学校の実状に合わせ組んでいるとのことです。

総合的な学習の時間に「つくばスタイル科」という学習に共通して取り組んでいるそうです。つくば市の全小中一貫校で取り組んでいるとのことです。

また、小学校・中学校間で様々な交流があると聞きました。小学校の運動会における中学生のボランティア活動、中学生による小学生への学習サポート、小学生が中学校の部活動や合唱を見学するための学校訪問、「ハートフルタイム」という小中学生合同授業、中学校教員による小学校での乗り入れ授業等、いろいろなパターンの交流を実施しているとのことです。

6年生から7年生への進級の様子については、7年生の中学校への慣れが早く、中学校に親しみを持って進級してくる様子が見られるとのことです。様々な形での交流を繰り返すことにより、小学生にとっても、中学校はよく知っているところという感覚があるとのことです。

中学生にあたる7～9年生の様子については、自分自身も優しくしてもらって中学生になっているためか、中学生は小学生にて優しく関わる様子が見られるようです。

施設分離型の小中一貫校であっても、学校間の距離が近いと、それほど移動に時間がかからないので、交流等はしやすいとのことです。

市内にある施設一体型の小中一貫校のよさは、最新の設備、日々の小中学生のつながり等にあるとのことでしたが、一方で現在児童生徒数の大幅な増加により、収容面で課題が出ている学校もあるとのことです。

以上、リモートによる勉強会の内容を紹介させていただきました。

なお、小学校1校と中学校1校の分離型小中一貫校の事例についても県内外を調べてきましたが、規模的に初倉地区の参考となるような学校との勉強会を開催できておりません。

委員長：ただいまの説明は、施設分離型小中一貫校の桜並木学園つくば市立並木中学校とのリモートによる勉強会の概要でした。望ましい統合の形態を検討するには、施設分離型の小中一貫校についても情報を持つておく必要がありましたので、事務局が行った勉強会についても今回報告させていただいた、ということです。

桜並木学園は施設分離型ですが、学校間の距離が近いこともあって、学校間交流を中心に、小中一貫教育を推進できているとのことでした。また、同じつくば市内の施設一体型小中一貫校の話題にも触れられていました。では、ただいまの説明について、質問などはございますか。

委員A：直線距離が約700メートルとありましたが、実際に初倉地区だとどのくらい

の距離になりますか。

委員E：700メートルよりは少し距離があると思いますが、校外勤務で出張扱いにならない距離なので、離れすぎているわけではないです。若干初倉中から見て初南小の方が遠いと思います。

委員G：学校間の距離がそれほど離れていなければ、施設分離型小中一貫校でも良いと思います。保護者からすれば、自宅から学校までの距離が離れば心配事も増えるという話を聞きました。初倉地区の中央に無理やり施設一体型にする必要もないのではないかと思います。

教育長：施設分離型の場合、学校間の距離が交流をする際に重要となり、10分間の休み時間内に移動できれば授業を差し支えなく行えるが、移動時間が10分以上だと授業時間を短くしなければならず、授業に支障をきたすので、10分以内に移動できるかが、1つのポイントになると思います。湯日小学校との交流の中でも大変だったことがあったと思います。

委員F：距離は関係なく、交流には大きなメリットがあります。湯日小と初倉小が交流をするときは、湯日小の児童がバスで初倉小まで来ていました。移動時間は授業が出来なかったです。しかし、湯日小と初倉小が交流をしたことにより、児童達が環境に慣れ、統合後も安心して生活をする事ができています。これは統合をする上でのメリットであったと思います。

初倉小学校の6年生が初倉中学校の文化祭を見に行くというイベントがありました。すぐ近くに中学校があれば問題は無いのですが、雨の中を歩いていくのは厳しかったです。

委員E：前任校が藤枝市の広幡中だったのですが、広幡小と広幡中が、初倉小と初倉中の距離関係と同じで、広幡小中で交流授業をやっていました。教員の兼務申請をして、1年を通してどちらの学校でも授業ができるような状態にしていました。中学1年生の数学の授業を、小学校6年生時担任だった先生がティーチングアシスタントをしたり、中学の音楽、美術、書写の先生が小学校に出向いて授業をしたりしていました。教員の空き時間を作り、余裕ができたので実現することができました。交流授業の良さはありました。

ただ、管理職としては、職員が休み時間に移動することに対し事故などの心配がありました。そういったこともあり、学校が離れすぎていると交流授業は難しいと思います。小中一体校であれば一番実現しやすいが、デメリットもあります。隣接型の小中一貫を行っている地区もあります。それぞれのメリット、デメリットを提示してアンケートを実施しないと結論が出ないと思います。

事務局：正確な情報を把握して取組んでもらうために、メリット、デメリットをまとめたものを作っていきたいと思います。

委員C：つくば市の分離型学校については、地域との連携についてどういった取り組みがあったか情報があれば教えていただきたいです。もう一点は、つくば市内に小中一体型と小中分離型が合せて15校もあると聞いたのですが、つくば市は今後、どちらの方向で進んでいくのか情報があれば教えていただきたいです。

事務局：どちらの質問についても、聞き取りが足りていませんでした。しかし、一体

型の学校については人口の増加から収容面で課題が生まれ、分離するという考えが出始めているとのことでした。

教育長：児童生徒数が 2000 人を超えたという特殊な事情があつてのことで、静岡県では見られないケースです。

委員 E：初倉 3 校で一緒に学校運営協議会を持たないかという話合いをしています。課題共有をしたり、同じ方向を向いて教育活動をしていくようにしたいです。

教育長：大いに結構です。小中一貫教育は島田市の方針でもあり、初倉地区は昔から一体的な教育を重んじている地域でもあるためです。

(4) 小中一貫校に関する意見交換について

委員長：意見交換では、「初倉地区に相応しい統合の形態」をテーマにしたいと思えます。ここですぐに結論を出すわけではありませんが、保護者や地域の皆さんにアンケートの協力をお願いするにあたり、検討委員会の各委員が、どのような意見を持っているかをお示しする機会となりますので、今日は率直な御意見をお聞かせください。

委員 G：地域で話をしていく際に、初南小に初小が来たり、初倉地区の中心に土地を買い、一体校を作ったりすることも可能なのかねと言った話をしました。どういう形態になるのか検討しなければならないと思いました。1つの学校で運営が出来なくなつてからでないと、意見がまとまらないのではないかと思います。20年前からその年の出生数がわかるという情報を見ました。これに基づけば、いつ初倉地区小学生の1クラスが20人以下になるなど分かります。そういった調査をしてからもう一度考え直してよいと思います。

委員 J：昔の小中学校はほぼ隣接しており、交流は無かつたものの小中一貫校でした。中学生がクラブ活動で野球や陸上をやっていたのを見てあこがれの気持ちを持ちました。また、当時は中1ギャップは無かつたと思います。

一番気になることは、小中学校の耐震性です。小中学校をそれぞれ建て直すのか、小中一体校にするのか分からないが、なるべく早めに意思決定をするのが良いと思います。私は小中一貫校については良いと思います。

委員 B：いろんな意見を聞いて、どちらにもメリット、デメリットがあることは分かりました。地震の心配や、自然災害などが増えていく中で、子供が安心して通えることが親にとっては重要だと思います。そういった学校設備の問題で現状を変えなければならないという中で、ある程度手段を決めて、それぞれのメリット、デメリットを提示することによって意思決定がしやすくなると思います。

委員 A：保護者や、地域の方たちは、小中一貫校に関して知らないことが多いため、不安に感じています。小中分離型についても交流を深めていけば、中学校に進学する際の不安が解消されると思いました。ここで議論していることを周知しないと、保護者や地域の方たちが一貫校について賛成するのは難しいと思います。どのように周知していくのかを注視していく必要があると思います。

委員 H：小中分離型も良いと思ったが、耐震の為に3校とも建て替えとなるのであれば、小中一体校が良いと思いました。1歳半の子供がいるが、中学校に上がるまで

に何かしらの形となって、ICTを活用した教育が進んでいる学校を創造したいなと思いました。

防災については、学校を避難地として利用するので、小中一貫校となれば新たなモデルとして活用されることについても興味があります。

委員C：より良い初倉地区を作り上げていくために、多くの人に周知し検討していく必要があると感じました。

委員長：副委員長からお話がありました、人口統計について事務局から何か説明はありますでしょうか。

事務局：先程の統計による人口予想については、統合する時期についての議論と合致しています。防災や建築の話については、小学校2校が統合するのか、小中学校が統合するのかという議論に繋がってきます。

また、これまでは使用に耐えられなくなった校舎は建て替えをしてきました。しかし、これからは校舎の長寿命化が基本となってきます。これまでの基礎や構造土台を使用し、表面、内側を改修していくことが基本とされています。島一小については、北部4校との統合で生徒数が増えるため、今までの校舎の構造のままでは面積等が不足することから、改築をすることとなりました。

長寿命化のための改修をするタイミングをどこかで迎えます。長寿命化の改修後に統合をするとなった時、そこまでに投じた補助金の返還等様々なデメリットが生じると考えられます。一体校とした場合、正確では無いですが、どれだけの面積や金額が必要になるのかを文部科学省の基本的な規模から、算出したものを借りの資料として提示させていただきます。初倉小学校と初倉南小学校が統合した際に50,976㎡の面積が必要とされています。小中学校でそれぞれ体育館や運動場が必要となるので、概算で76億円必要になると考えられています。小中学校それぞれが効果的に施設を利用することも考えていく必要があります。

アンケートについては、こうした判断の材料となる情報を周知していくことが必要になっていきます。

委員D：これまで島田市では小中一貫校を目指してきたが、各学校それぞれの目指す方向性があったので、それらをまとめていくことは難しかったです。北中の校長をしていた時に距離的な問題から、交流授業は年に4回から5回までが限界でした。学校間の距離は重要です。

浜松中部学園に視察に行った際に、理科室等の施設は2倍の数が必要であると感じました。統合したのに施設の利用に制限が生じるのは子供の学びを損ねてしまいます。このことから隣接型一貫校がふさわしいと思います。中学生が小学生の面倒を見ることや、中1ギャップの解消などのメリットがあるため、目的は遂行していきたいと思いました。予算や耐久性などを総合的に考えていく必要があります。

委員長：今回の意見を保護者や地域の方々に参考にさせていただきたい。

(5) 周知方法及びアンケートの内容について

事務局：まず、お手元の資料の別紙2を御覧ください。

こちらの視察報告と別紙3を両面コピーしたチラシを、初倉地区の児童生徒の保

護者と就学前児童の保護者に学校や園を通じて配布し、地域に対しましては回覧文書にさせていただく予定でいます。チラシの作りとしては、1枚に収まるようにコンパクトにまとめ、詳細については市のホームページに誘導する仕組みとしました。記載のQRコードを読み取っていただくと、市のホームページにつながり、別紙1の視察の概要のほか、今日の開催を含めた3回分の検討委員会の概要を見ることができます。

内容としましては、浜松中部学園開校までの簡単な経緯、初倉地区の皆さんからいただいた質問に対する回答の一部、そして、視察に参加した委員の声としてあり、「委員の声」につきましては、先ほど皆さんが述べられた感想から抜粋したいと考えています。

続けて、アンケートの内容について御説明します。

今回のアンケートは、初倉地区の小中学校と保育園等の保護者と、初倉地区在住の地域の皆様に対して実施するものです。質問事項は、基本情報として「お住まいの小学区」と「お子さんの学年等」を、本題として「望ましいと思う初倉地区の統合の形態と統合の時期」を尋ねるものとなっています。最後に自由記述欄を設けて、御意見や御感想についても記述式で収集することを考えています。

なお、保護者に対しましては、学校や園を通じて全員に御協力をお願いし、地域の皆様につきましては、15歳未満のお子さんのいない世帯のうち、1,000件程度をランダムに抽出し、アンケート用紙を送付する方法を考えています。

それぞれの方向についてのメリットやデメリットをどのようにアンケートに記載するのか、別紙にまとめるのかを検討していきたいと思えます。

説明は以上となりますが、アンケートについての会議を開催することは難しいかと思えますので、アンケートができ次第、委員の皆様へ提示をしたいと思えますのでよろしくお願ひします。

委員長：事務局からは浜松中部学園の視察報告の周知方法と、これから実施するアンケートの内容について説明がありました。事務局の説明への質問も含めて、いかがでしょうか。

委員E：アンケートは紙で実施しますか。

事務局：デジタルでアンケートを実施すると、1人が何件も回答できてしまうという事例があったので、紙で実施しようと思っております。

4 閉会（～午後8時45分）